

平成28年度第2回市民と市長の対話集会

市長と語ろう！

ほっとミーティング

テーマ ひらつかの「子育て・高齢福祉・安心安全」

開催結果報告書

- 1 開催日時 平成28年（2016年）8月31日（水）
午後7時から午後9時まで
- 2 開催場所 崇善公民館 ホール
- 3 参加者 10人 傍聴者 16人



ほっとミーティングの様子

4 市長あいさつ

皆様こんばんは。本日は大変お忙しい中、「市長と語ろう！ほっとミーティング」に御参加いただき誠にありがとうございます。

現在、平塚市の大きな課題は、全国と同様に少子高齢化と人口の減少です。全国に約1,700ある自治体ですが、将来的には半減するとの見込みもあるほどです。国からは、自治体が存続するための戦略をたてるようにとの指示もありました。

そこで、平塚市は今後目指すまちづくりの計画として、新たな総合計画「ひらつかNext」を策定しました。計画の重点施策を、「強みを活かしたしごとづくり」と「子どもを産み育てやすい環境づくり」、「高齢者がいきいきと暮らすまちづくり」、「安心・安全に暮らせるまちづくり」として、このほっとミーティングでは、「子育て・高齢福祉・安心安全」をテーマに、市民の皆様から率直な御意見を伺って市政に反映したいと考えますので、よろしくお願ひします。

また、本日はできる限り私からお答えさせていただきますが、中にはこの場でお答えできないこともあるかと思ひます。その際には、事務局から担当課への確認を行い、皆様にフィードバックさせていただきます。本日はよろしくお願ひします。

5 主なミーティングの内容

① 子育てについて

【参加者】

待機児童は全国的な課題ですが、保育園不足とともに深刻な課題が保育士不足です。保育士を目指す人が増えるように、待遇の改善が必要だと思います。

また、学童保育は小学校高学年になると利用できないところがあり、母親が仕事を辞めざるを得ないことがあります。これからは、学童保育の対象年齢を引き上げることや夏休みだけの利用を認めることも求められるのではないのでしょうか。

【市長】

平塚市の保育園では、0歳児と1歳児クラスへの保育士の配置が国の基準を上回っています。保育士不足の一つの要因ですが、選ばれるまちになって人口が増えるためには子育て世代に住んでもらう必要があります、手厚いサービスが一つの魅力でもあります。

この4月からは、「子育てするなら平塚で」を目標に、保育や教育、福祉などの課題に総合的な対応をするため、子ども・子育て推進会議を立ち上げました。待機児童の解消や育休退園制度の廃止を実現し、御意見いただいた多くの保育士を目指す人が平塚市で就職できる環境づくりにも取り組んでいます。

学童保育には、地域の皆様や民間によるものがありますが、今後は行政がどの程度応援できるかを考える必要があります。夏休みの利用が増えていることも伺っており、お話いただいた夏休みだけの開放もまちの魅力化につながると考えます。

【参加者】

スマートフォンやゲームに支配される子どもが非常に心配です。遊びに出かけても、ファミリーレストランでも、集団になっても、夢中に操作しています。極端に言えば、学校での所持禁止などを条例で定めることはできないのでしょうか。

また、中学校の昼食の時間は15分間だけです。あまりにも短すぎると思います。以前先生に相談したところ、慣れるから平気と言われました。しかし、私が受けた健康診断では、食事に15分以上かけることがメタボリックシンドローム対策になると言われました。中学校の対応は矛盾しているのではないのでしょうか。せめて、あと10分間長くしてほしいと思います。

【市長】

スマートフォンやゲームの抑制のために条例を定めることは難しいですが、本市には子どもが楽しむべきものが多くあります。特にスポーツは盛んで、サッカーでは湘南ベルマーレ、野球では横浜DeNAベイスターズ、バスケットボールでは横浜ビー・コルセアーズとプロスポーツが観戦できます。プロスポーツの臨場感を直接感じることも子どもの心と体の発育につながると考え、平塚市は市内小学生が無料で3つのプロスポーツを観戦できるドリームパスポートも発行しています。

中学校の昼食時間は、私も以前から教育委員会には話をしています。文部科学省が定めるカリキュラムの都合上仕方ないとのことですが、決してしわ寄せが学力に影響しないように5分でも10分でものばしてあげることができれば良いと思います。

【参加者】

平塚市には、中学生までの医療費に助成制度があります。しかし、所得制限があることから、不公平感は否めません。所得制限の対象になる友人は、入院だけでも助成を受けたいと話しています。

【市長】

小児医療の助成制度は、平成24年度に小学校3年生から6年生まで、今年度からは中学生までと引き上げました。収入で約700万円の方から所得制限がありますが、所得の高い方には応分の御負担をいただいております。この制限には、医師会からも多くの御意見をいただいております。深刻な財政難の中ですが、少子高齢化が進む中、税収の減少や社会保障費の増加は避けることができません。現在の小児医療助成制度を維持するためにも、現状では所得制限を設けさせていただいておりますので、御理解くださるようお願いいたします。

② 高齢福祉について

【参加者】

介護保険制度に変更があり、平塚市は健康チャレンジに基づく介護予防に各地域で取り組んでいます。8か所ある高齢者よろず相談センターは今後13か所に増えるそうで、とても良い計画だと思います。しかし、福祉の充実は安心なまちづくりにはつながりますが、生産性が期待できなく財源や持続性が心配です。

【市長】

9月2日からお届けする広報ひらつかでは、地域で高齢者の方を支える仕組みを特集しました。充実した仕組みづくりのために、高齢者よろず相談センターは、よりエリアを細分化して配置していきます。厚生労働省のモデルとして取り上げられる町内福祉村にも引き続き取り組んでいきます。御意見のとおり、明確な生産性はわかりにくいですが、これまでの本市を支えていただいた先輩方がいきいきと暮らせる環境を保つことは本当に大切です。そのためには同時に税収の増加を図る必要があります、経済の活性化が不可欠です。そのためにも、大型商業施設の開業やツインシティ計画にも力を入れていきますので、御理解くださるようお願いいたします。

【参加者】

松原地区では、地区社会福祉協議会が中心となって77歳以上の方を松原公民館に招待してお祝いします。長寿のお祝いは行政から地域の事業へと代わりましたが、最も苦勞していることが対象者の把握です。住民基本台帳の閲覧にて行いますが、今年の作業には閲覧費用が9,300円、調査時間が4時間30分かかり、非常に負担となっています。

【市長】

明日から、米寿（88歳）と白寿（99歳）、100歳以上の方に記念品やメッセージをお届けし、お祝いと今後の激励をさせていただきます。88歳は946人、99歳は75人、100歳以上は114人で、平成26年度から100歳以上の方が100人を超えました。地域で行っていただく長寿のお祝いで、御意見のような負担をおかけしていることは知りませんでした。行政ができることを確認して、地域への御負担を軽減したいと考えます。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

本市では、多年にわたり社会の進展に寄与してこられた高齢者の方々に敬愛の意を表し、その長寿を祝うために、米寿（88歳）、白寿（99歳）及び100歳以上の方を対象に敬老祝品の贈呈を行っています。

地域のつながりの重要性があらためて認識される中、市の祝品贈呈対象外も含む77歳以上の方に対して、地区においてお祝いを実施していただいていることは、地域内の交流を深め、より良い地域づくりにつながっていくものと思っています。

一方、全国各地で個人情報悪用した事件等が発生し、個人情報の取り扱い

には細心の注意が求められており、本市としましては、町内福祉村での活動や老人クラブ等を支援する中で、地域内の交流や、人と人とのつながりを深め、地区事業等が行いやすい環境整備を進めていきたいと考えています。

そして、本件については、従来行っていただいている方法の他に、地区の回覧板等の活用など、地区の自治会の協力を得ることによって、対象となる高齢者への周知や確認を行っていただきたくお願いします。

(事務担当は高齢福祉課高齢福祉担当)

【参加者】

崇善公民館をよく利用します。公民館は高齢福祉や生涯学習活動の拠点ですが、現在建て替えの話が進んでいます。市民活動センターが入ることまでは聞いています。地域住民の憩いの場となるように、軽食などが可能な場所があれば良いと思います。また、平塚市らしく、天井を吹き抜けにして七夕飾りを吊るすような、素晴らしい公民館になってほしいです。

また、市民センターは耐震調査中で利用できません。平塚市や駅周辺の活性化には市民センターの復活が不可欠です。財政状況は厳しいと思いますが、平塚市の文化芸術の発展のためにも、生まれ変わる市民センターに期待しています。

【市長】

崇善公民館は戦後の議事堂であり、歴史的建造物です。現在旧警察署跡地に新しく崇善公民館を造り、市民活動センターも配置して地域や市民の皆様の活動の拠点となるよう計画に取り組んでいます。

また、市民センターは耐震診断中で、現状では相当な修繕が必要と報告を受けています。億単位の改修を行ってホールを使えるようにするか、市民センターそのものを建て直すか、または、民間の活力を活かす方法など、具体的な検討をしている最中です。

③ 安心安全について

【参加者】

この10月、天沼地区に大型商業施設がオープンします。一帯は交通量が増えて、危険が増すことが予想されます。当然シミュレーションが行われていると思いますが、近隣には松原小学校もありますので、安全対策を徹底してほしいと思います。

【市長】

天沼地区の大型商業施設では、警察との交通協議に時間がかかったそうです。敷地内には、東西をつなぐ道路ができますが、当初14メートルだった計画は警察の指導によって歩道付きで17メートルになり、都市計画が完成しました。しかし、駐車台数約3,500台、店舗246軒の大きな施設です。予測できない自動車の流れが生まれる可能性もあります。担当課では、地域の交通安全協会やPTAと協力して、通学路等の安全対策にも取り組んでいます。地域に向けた安対対策の周知は、改めて徹底するように指示いたします。

担当課回答（集会後、次のとおり担当課に確認しました。）

天沼地区の大規模な商業施設の開業にあたっては、開発事業者は、神奈川県警察と店舗へのアクセス経路を協議設定した上で、経路上で交通渋滞を発生させないための対策に取り組んでいます。

開業に先立つ平成28年9月27日には、主なアクセス経路である国道129号と幹道47号駅前通り線を結ぶ幹道59号天沼宮松町線が開通しましたが、同時に、来店する車両が後続の通過車両に影響を与えないように、国道129号には左折レーンや右折レーンが、また、幹道47号駅前通り線にも同様に右折レーンが整備されています。さらに、商業施設本体棟と立体駐車場を道路上空でつなぐブリッジを整備することにより、左折による駐車場の円滑な出入りが可能となります。

本市としては、開発事業者が実施する、このような交通渋滞対策を前提として、さらにその効果を高めるため、開発事業者、交通管理者、道路管理者、交通事業者などからなる「平塚市天沼地区交通対策連絡会議」を開催し、交通対策に関する取り組み内容を共有するとともに、それぞれの役割分担のもと、交通対策に取り組んでいます。

具体的には、交通系ICカードを利用した来店者に対するポイント付与や、JR平塚駅と商業施設を結ぶ路線バスを新設する等の対策を実施することで、「公共交通機関の利用促進による自動車の総量抑制」を目指します。また、看板による誘導や臨時駐車場の確保、商業施設周辺の生活道路への進入抑制などの自動車対策や、商業施設周辺及び平塚駅から商業施設への歩行者等の案内などの歩行者・自転車対策を実施することで、「交通の円滑化・交通安全の確保」を図ります。

なお、これらの対策内容は、開発事業者のホームページ等による周知や、本

市ホームページにも概要を掲載します。大型商業施設の開業後も、引き続き、関係機関と連携して、交通対策に取り組んでいきます。

(事務担当は交通政策課交通政策担当)

【参加者】

平塚八幡宮前の国道に架かる歩道橋は、ベビーカーを使用する親子は利用できません。高齢者の方も昇り降りが非常に大変だと思います。市役所前のように、平面の横断歩道にしてほしいです。

【市長】

10月6日、天沼地区に大型商業施設がオープンします。今後、駅一帯はさらにバリアフリー化が求められます。平塚八幡宮前の歩道橋も、国道事務所や警察にも相談して平面の横断歩道への整備をお願いしていますが、他の信号や交通量、交通の流れによる安全面を考慮すると、現状での平面化は難しいとのこと。例えば、道路の拡張などによる安全が確保できたうえで、将来的には平面の横断歩道を目指したいと考えます。また、駅から平塚八幡宮に向かう大門通りは国道1号で途切れていますが、正月だけは国道を渡れるように対応していただいています。歩道橋と同様に、安全面を確保して年中渡れる通りになることが理想です。

【参加者】

中央地下道は昼でも暗くて怖いです。通行をためらう人が多く、場所のわりには利用者が少ないです。子どもやベビーカーを利用する人が一人でも安心して通行できる、明るく安全な地下道に整備してほしいです。

【市長】

中央地下道の安全対策も、交通課題の一つです。平塚市の南北をつなぐ重要な地下道でもありますので、御意見を担当課に伝えてお返しさせていただきます。可能であれば、今後は平塚駅西口や見附台周辺地区の開発に絡めて、総合的な安全対策の中での環境整備を考えたいと思います。

担当課回答 (集会后、次のとおり担当課に確認しました。)

現在、道路管理課においては、道路照明灯をLED灯に改修しているところですが、御要望のありました中央地下道についても、現状の明るさを調査し、適切に改修を行ってまいります。

(事務担当は道路管理課維持担当)

【参加者】

須賀新田自治会の会長をしています。相模川左岸の築堤は永く課題ですが、国への要望等、市長には毎年御尽力いただいています。今後ともよろしく願います。

今日は地域の防犯街路灯のことで、須賀新田自治会の地域と茅ヶ崎市との境界線、堤防上にある防犯街路灯は根元が腐って使用できません。市役所に相談したところ、国土交通省や道路管理者の許可等が必要になるもので、すぐには対応できないとのことでした。自治会会員からは早期の対応を求められていてとても困っています。

【市長】

相模川左岸の築堤は、今年も国土交通省に要望しました。安心安全のために最重要なことと認識しており、今後も強く訴えていきます。

防犯街路灯は担当課にお話を伝えさせていただきます。現場の状況を確認後、許認可等の課題を調査してお返しさせていただきますので、よろしく願います。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

相模川左岸堤防上の防犯街路灯については、松原地区自治会連合会とも協議を続けさせていただいていますが、昨年度、腐食により独立柱を撤去したことから上流側の防犯街路灯に電源を引き込むことが出来なくなり、解決するためには、再度建柱することが必要となります。

河川堤防上への設置となることから、相模川を管理する国土交通省京浜河川事務所との調整が必要となり、11月中旬には、京浜河川事務所を直接訪問し、協力を依頼したところです。

京浜河川事務所と協議した結果、当該堤防上へ防犯街路灯が設置された経緯の整理や設置工事に伴う技術的な面など多くの課題があり、占用手続き等には時間を要する見込みですが、出来るだけ早期の解決を目指して、関係機関との調整を進めていきます。

（事務担当は危機管理課危機管理担当）

【参加者】

夏に石巻市を訪問して地元の高齢者の方とお話しました。平塚市を御存知で、海が近いまちは東日本大震災を教訓にしてほしいとのことでした。強調されていたことは、1,000年に1度の想定外の災害が起きたということでした。津波が起きた時には高いところに避難する必要があるので、避難時に分かりやすく、建物には目印を付けてほしいと思います。

また、近隣市町では、災害時の避難カードが配られているところがあります。赤色のカードは家にいる、黄色のカードは避難中など、ドアノブにかけるだけで分かるので、救助の時にとても役に立つものだと思います。

【市長】

県が想定する平塚市に到達する津波の高さも、最高6.9メートルから9.6メートルに変わりました。国道134号は約8メートルありますが、新しい想定では東海道線まで影響が出る可能性があります。平塚市ではこれまで津波避難ビルの指定に取り組んできました。3階建て以上で逃げ場がある建物の指定が77か所まで増えました。約7万2千人分の避難場所が確保できました。建物にはシールを張っていますので、御確認くださるようお願いいたします。今後は川を遡る津波への対策を進めたいと考えます。

6 市長によるまとめ

本日はありがとうございました。

「子育て・高齢福祉・安心安全」は平塚のまちが取り組むべき課題です。それぞれの課題を解決することで、「選ばれるまち・住み続けるまち」になると考えます。本日伺った御意見も参考にさせていただきながら、責任を持って市政に取り組んでいきます。

崇善地区も含めた平塚市の皆様は自発的にまちづくりに関わっていただけ、これはこのまちの財産です。自治会や地区社会福祉協議会、町内福祉村、PTAなど、地域の課題を地域で解決することが地域や平塚市の発展につながると信じています。

平塚市が「選ばれるまち・住み続けるまち」になるように、まちづくりに積極的に関わっていただき、一緒に汗をかいて取り組みたいと考えるので、今後とも御協力くださるようお願いいたします。

本日は本当に貴重な御意見をいただき、誠にありがとうございました。

7 その他の御意見

参加者の皆様から、次の御提案や御意見をいただきました。

【参加者】

小学校のトイレは洋式に改修できませんか。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

現在、小・中学校トイレの洋式化事業を平塚市教育振興基本計画「奏プラン」（後期実施計画）に位置付けて、取り組みを進めています。毎年、数校ずつ実施している小・中学校の校舎、体育館の大規模改修工事の際や、個別の改修工事で、便器の洋式化への改修を行っています。

小・中学校のトイレ洋式化率は、平成28年度末には41.2%となる見込みですが、平成31年度までに50%を目標として、トイレ洋式化を進めていきます。

（事務担当は教育施設課管理担当）

【参加者】

桃浜町周辺の道路には歩道が少なく、小さい子どもを歩かせることに不安があります。道路を整備して歩道を造ってほしいと思います。

担当課回答（集会后、次のとおり担当課に確認しました。）

桃浜町地区を含め、本市の市街地では、比較的交通量の多い幹線道路でも歩道の無い箇所があり、御不便をおかけしています。幹線道路については、歩行者の安全確保の上からも、歩道と車道を分離した道路が必要であると考えています。

しかしながら、御要望の地域では、沿線には既に家屋等があり、道路拡幅には地権者の合意形成及び用地買収等に相当の財源を継続的に確保する必要があることから、拡幅整備には暫く時間を要すると考えています。

当面の対策としましては、道路の残地等を利用した歩行空間の整備や区画線による通行箇所の路面標示をするなどして、歩行者の安全性の向上を目指していきます。

現在、整備を予定している箇所は、JR東海道線沿い南側に位置する東西道路（平塚駅桃浜町線）のJR社宅付近です。

（事務担当は道路整備課計画担当）

アンケート結果報告

【アンケート回答数 17件】

問1 市長の説明や市長との対話はいかがでしたか。

よかった	6人
まあよかった	9人
どちらともいえない	1人
あまりよくなかった	0人
よくなかった	0人
回答なし	1人

問2 本日の「ほっとミーティング」のご感想について。

- ・話が具体的でわかりやすかった。
- ・勉強になりました。
- ・1つずつ回答していただけて良かった。
- ・平塚市が抱える問題や参加者の意見聞いて、改善できる点があると感じました。
- ・市長から誠意ある発言を直接聞けて安心しました。
- ・子育てに関する意見をPTAなどに聞くと良いと思う。
- ・時間が少なかったような気がします。
- ・市長の丁寧さに感動しました。
- ・市民は要望ばかりで、市政に参画しようという気が薄いと日々感じています。
- ・市長をはじめ、地域の皆さんの生の声を聞くことができ良かったです。
- ・子育て世代の意見を聞くのであれば、もう少し早い時間に開催してほしい。
- ・普段思っていることを、参加者が話してくれて良かったです。
- ・具体的な議論で参考になった。
- ・地域にはいろいろなニーズがあることを改めて知った。